

りとにゆーす

No.55 2007.4.1

新 入 生 歓 迎 号

編集・発行 岡山理科大学図書館
〒700-0005 岡山市理大町1-1
<http://www.lib.ous.ac.jp>



● Contents ●

- ☆読むこと・見ること p.1
- ☆レポートの書き方
 - ・図書館できたえようー文章はスポーツだー p.2
 - ・実験系レポートの書き方 p.3
- ☆学科別推薦本コーナー p.4
- ☆理大のレファレンス事例 p.8
- ☆「図書館利用案内」掲載イラスト展開催 p.10
- ☆図書館オリエンテーション2006から p.11
- ☆図書館オリエンテーション2007に参加しよう! p.12

読むこと・見ること

副学長／波田 善夫

パソコンが本格的に流布し始めたのは、25年ほど前であつたろうと思う。それまでは活字で印刷された文章を作るには大変な労力が必要であつた。事務室では、タイピストが和文タイプライターをパチ・パチと長い時間かかって文章を印字していたものである。本や雑誌を作ることはもちろんであるが、単に活字で印字されたプリントを作ることですら、大変な作業であつた。パソコンの登場によってこれらの作業は一挙に簡略化されるとともに、文字情報の大半は電子化され、印刷物は大きく減少するであろうと予測されていた。

パソコンの登場によって、文章をお化粧して世に出す作業は一挙に簡略化され、スピードアップされた。コピーの技術も飛躍的に発展し、家庭での印刷が可能になった。この結果、印刷物は消滅するどころか、逆に大量の本や文章が氾濫することになり、予測は見事に外れてしまったのである。

CRTに表示されている電子的な文字列も文章なのであるが、どうやら紙に出力されたハードコピーの方が、理解しやすいらしい。CRTに映し出された文字列は、長くて複雑な文章の理解に関しては苦手ようである。スクロールしていく情報にもそれなりの利点と用途があるが、紙に印刷された文章や肉筆で書かれた手紙には電子的な情報以外の奥行きがある。何度も読み返し、行間のニュアンスを汲み取って理解するためには、紙に印刷された文が適している。専門性が高くなればなるほど、本が必要になる。インターネットの世界には情報があふれているが、文章よりも画像的情報が主役である。例えていえば、デジタル情報は絵本であり、文章を主体とした本は、今後もなくなるらない。